

令和7年 水稻病虫害発生状況（6月）

1 葉いもち

捕植用置苗の残存ほ場割合は、6月上旬、下旬ともに全域で低くなり、置苗での葉いもちの発生は確認されませんでした（図1、図2、表1）。

置苗は、葉いもちの発生源になるため、ほ場に残存している場合は、速やかに処分してください。

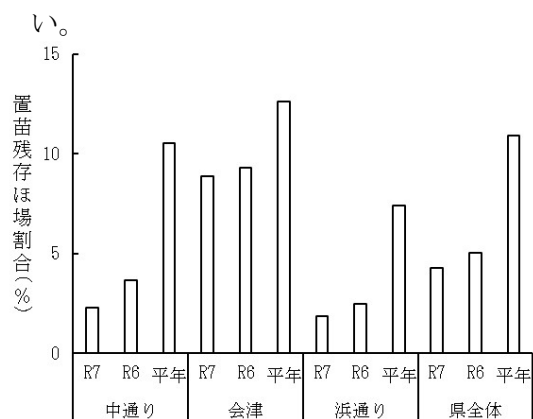


図1 捕植用置苗のほ場への残存状況（6月上旬）

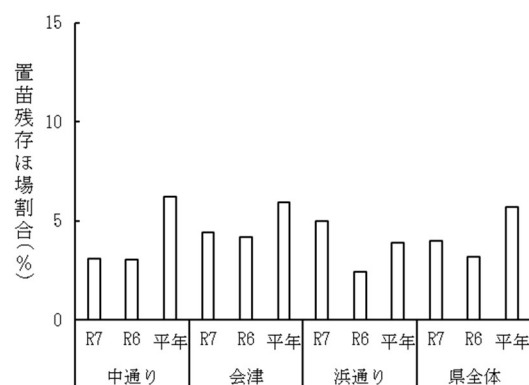


図2 捕植用置苗のほ場への残存状況（6月下旬）

注) 調査ほ場数： 中通り： 6月上旬：220、 6月下旬：260
会津： 6月上旬：180、 6月下旬：180
浜通り： 6月上旬：160、 6月下旬：160

表1 捕植用置苗での葉いもち初発確認日（令和7年6月20日現在）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	平年
中通り	6/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6/22
会津	6/8	—	6/21	6/11	—	—	6/17	—	—	—	—	6/14
浜通り	—	—	—	—	—	6/12	6/15	—	—	—	—	6/13

注) —は発病未確認を表す。

2 イネミズゾウムシ

発生ほ場割合は、6月上旬の調査では全域で高く、6月下旬の調査では中通り、浜通りで高く、会津で平年並となりました（図3、図4）。

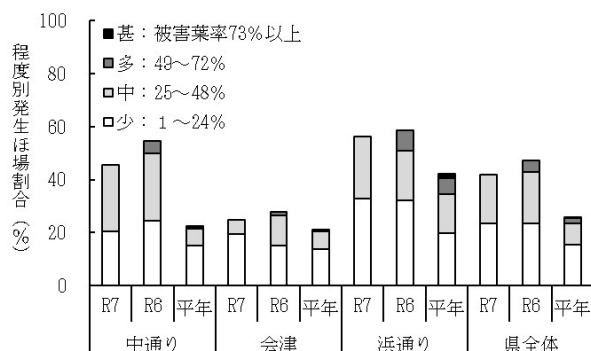


図3 イネミズゾウムシの発生状況（6月上旬）

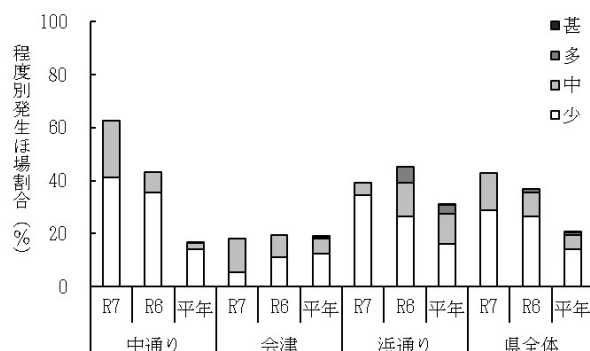


図4 イネミズゾウムシの発生状況（6月下旬）

3 イネドロオイムシ

発生ほ場割合は、6月上旬の調査では全域で低く、6月下旬の調査では会津で高くなりました（図5、図6）。

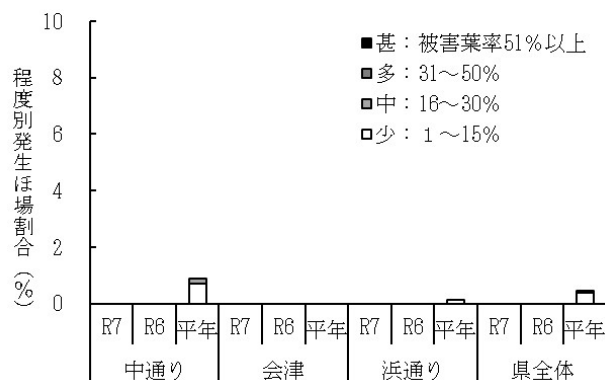


図5 イネドロオイムシの発生状況
(6月上旬)

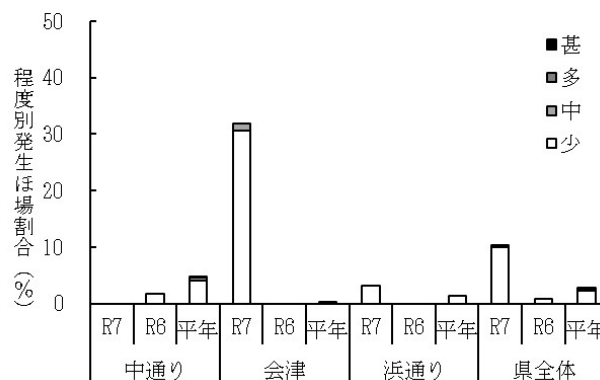


図6 イネドロオイムシの発生状況
(6月下旬)

4 イネヒメハモグリバエ

発生ほ場割合は、全域で低くなりました（図7）。

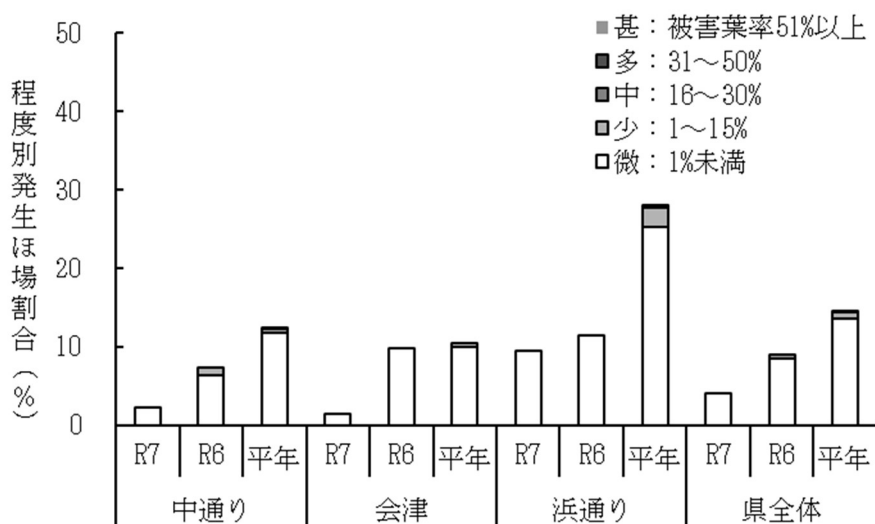


図7 イネヒメハモグリバエの発生状況（6月上旬）

5 斑点米カメムシ類

畦畔すくい取り調査による発生地点割合は、中通り、浜通りで平年より高く、会津で平年並となりました。発生程度の高いほ場の割合が、中通り、会津で平年より高くなりました（図8）。

発生種別では、全域でアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシが多く捕獲されました（図9）。

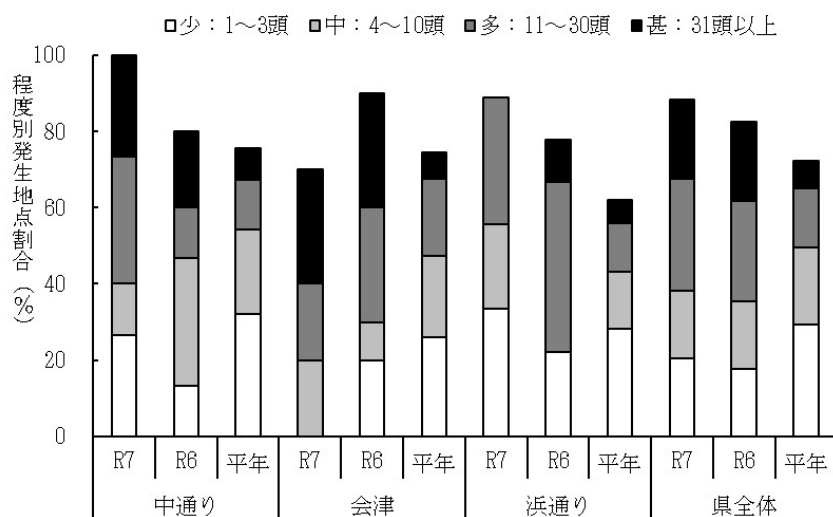


図8 畦畔すくい取り調査による斑点米カメムシ類
成虫の程度別発生状況（6月下旬）

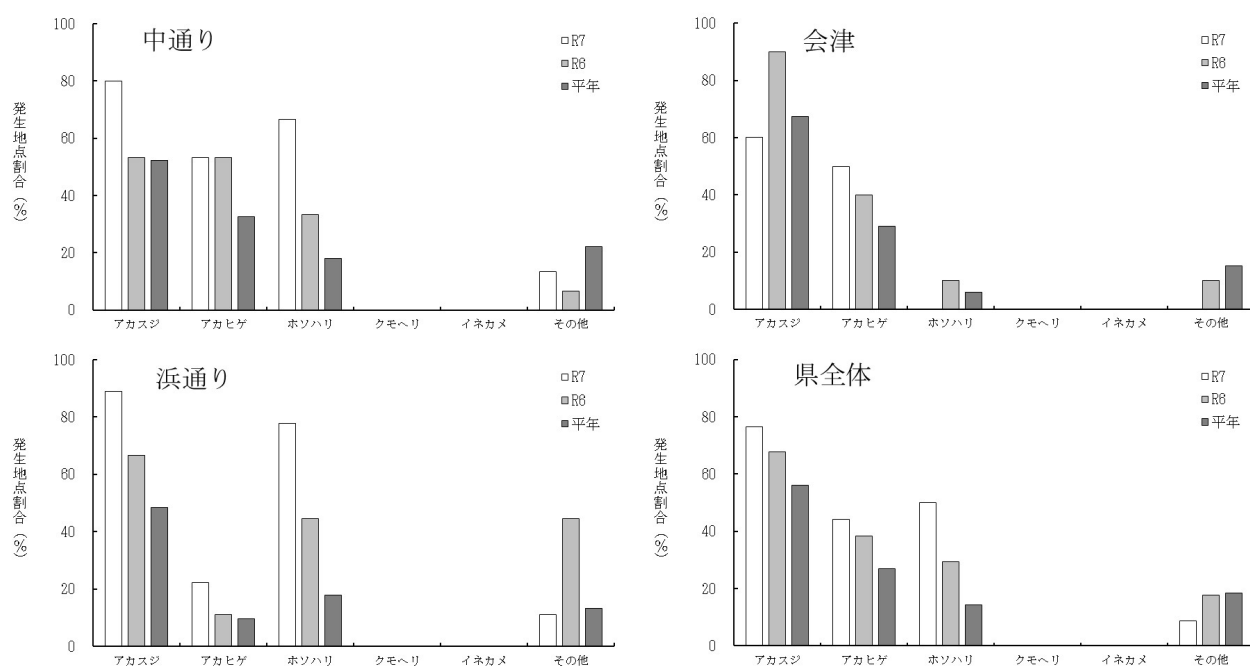


図9 畦畔すくい取り調査による斑点米カメムシ類の種別発生状況（6月下旬）

注）左上：中通り、右上：会津、左下：浜通り、右下：県全体